WEEKLY REPORT 第1009回 平成24年2月23日号

佐世保中央ロータリークラブ週報

第2740地区 佐世保中央ロータリークラブ 創立：1990年9月29日 認証：1990年10月22日

■事務局住所：〒857-0872長崎県佐世保市上京町3-2セントラルホテル佐世保419号室 TEL.0956-25-5595 FAX.0956-25-3445 Mail.chuo-rc@theia.ocn.ne.jp
会 長：田代 博之／副会長：富永 博美／幹 事：八重野 一洋

2011~2012 年度クラブスローガン

念ずれば花ひらく
楽しもうロータリー

国際ロータリー 2011~2012 年度テーマ

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

本日の出席率８４．１%：会員数４４名・出席３５名・欠席７名・出席規定免除会員（２） ２名・ビジター４名
前々回の修正出席率１００%：出席４１名・メークアップ１名・出席規定免除会員（２） ２名

会長挨拶・田代 博之君



皆さんこんにちは。今まで創立記念例会、１０００回記念例会、インターシティミーティング、延寿会と走ってきて、今私に空白の時間が出来ております。今まで会長挨拶では何か話すことがありましたが、今回は何を話そうかとかなり悩みました。悩むというより思いつきませんでした。今日はちょっと個人的なことを話させていただきたいと思います。

前も話したかと思いますが、母が道でこけて骨折をして救急車で総合病院に運ばれ手術を受けました。約４か月病院にいて、今は我が家に帰ってきております。要介護認定の２で痴呆が入っています。前は少しぼけてきたという程度でしたが、今は同じ話を何回も何回も繰り返します。今はデイサービスに週３回行っています。最初デイサービスから帰って来た時、私はどこに行ったのかと聞くので、商工会議所女性会とかソロプチミスト、インターナショナルレディースクラブなどいろいろな会に入っていたので、陽だまりの会に行ったというと、その陽だまりの会が非常に気に入ったらしく、陽だまりの会以外は全部やめると言い始めました。妻もいよいよ介護の覚悟を決めたようです。
話は変わりますが、４か月近く入院をして、病院に行ってつくづく思ったことは、すごい医療費がかかっているということです。これから団塊の世代が歳を取っていきますが、１０%に消費税を上げたぐらいではとても足りなくなるだろうと思いました。そして必ず日本の財政は破綻するだろうと思います。財政が破綻した国は今までどうなったかというと、ハイパーインフレが起こり、大不況が来るようです。どうも金とか現物を持っていた方が今からはいいようです。

成功の法則３２
好況よし、不況なおよし

これも松下幸之助の言葉で、大不況の時は自分の会社のいろんな問題が出てきて、それを解決する絶好の機会であり、次の飛躍へのチャンスである。世の中必ず不況が来たら次は好況が来る。だから不況はなおよしになるということです。私は会社でも、ロータリーでも何か問題があった時が、飛躍のチャンスだと思っています。これからもロータリーで何か問題があったときはよろしくご指導、ご鞭撻をお願いします。

本日のビジター紹介

佐世保南ロータリークラブ	宇土 義継様
	角 康隆様
	北村 孝輔様
佐世保西ロータリークラブ	富村 健様

Report 幹事報告・八重野 一洋君

１．例会変更
有田ロータリークラブ
２月２８日（火）→３月１日（木）１９：００～
ひさご 太良ＲＣとの合同例会のため

２．来 信
・ガバナー事務所
２０１２年３月ロータリーレート １ドル＝７８円

３．伝達・通信
・３月１日の例会は「職業奉仕委員会のセミナー報告」になっておりましたが、１０月２７日に報告済みですので、「ＩＭの報告」に変更いたします。

(^_^) ニコニコボックス

担当：岡 光正君

佐世保南ロータリークラブ 宇土 義継様・北村 孝輔様
久しぶりのメークアップです。田代会長の活躍振りを拝見しにやってまいりました。最後まで頑張ってください。

佐世保西ロータリークラブ 富村 健様
お世話になります。昨日のサッカー、オリンピック予選で日本代表が４対０でマレーシアに快勝。本日は気分が良いです。

週報制作：出席・会報委員会／芥川 浩一郎、西村 浩輝、四元 清安、浅野 訓一、後田 明子、馬場 貴博

田代 博之会長・富永 博美副会長・八重野 一洋幹事
今日は富永副会長は海外出張中です。本日の卓話は長崎国際大学院生のユ・ミンジョンさんの卓話です。よろしくお願いします。

牛島 義亮君
特別にこれといってニコニコの話題はないのですが、風の噂を聞き、本年クラブ奉仕委員長の私の下で、けなげに頑張っている前田君を思いニコニコします。

岩政 孝君
佐世保南ＲＣ、宇土様、北村様へのお願いです。角康隆次期幹事をよろしくお願いいたします。佐世保西ＲＣ、富村先生、サッカー協会ではお世話になります。皆様のご来訪に感謝いたします。

前田 眞澄君
皆さん、こんにちは。私も特にこれといって話題もないのですが、牛島クラブ奉仕委員長の温かい気持ちに対し、日頃は厳しいご指導の元、鬼のように思えてました牛島さんが、こんなにやさしい人だったと初めて感じることができました。私が未熟者でした。

本日の合計	9,000 円
本年度の累計	514,000 円

本日の卓話

《 私 の 中 の 日 本 》

長崎国際大学大学院生 劉　敏正さん



こんにちは。
長崎国際大学大学院社会福祉学専攻修士1年の劉と申します。本日このように佐世保中央ロータリークラブの例会にお招き頂きまして本当にありがとうございます。
この前、釜山蓮山ロータリークラブの皆さんが佐世保にこられた時、通訳で始めて佐世保中央ロータリークラブの皆様にお会いし、今回で2度目の縁となります。

これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

今まで 韓国からの留学生がこの場で色んな話をしたと思いますが、私は今日「私の中の日本」というタイトルで話したいと思います。

まず私の出身地はグミ市というところです。グミ市は韓国の中で工業団地で有名な所です。昔１９７０年代の朴正熙（パク・チョンヒ　박정희）大統領の出身地でもありまして今は日本の滋賀県大津市と姉妹都市となっております。慶上北道に位置していてソウルから 277.5ｋｍ、釜山からは 167ｋｍのところです。
面積はソウル市の面積より少し広いくらいです。人口は４２万人です。この前世界陸上が開かれた所とは、車で３０分ぐらいの距離です。私はそこで生まれ育ち、高校卒業のあと暫くの間、仕事をしていました。初めて日本と縁があったのは２００２年のワールドカップの年です。

皆さん覚えていますか？日韓両国ともすごく盛り上がりましたね。その時まで私は１回も海外に出たこともなかったし、もちろん日本語はひらがなも知らなかったくらいです。ある日突然海外に行ってみたいなと思って飛行機のチケットだけ買って一人で東京に行きました。それが私の中の初めての日本です。その時に言葉も通じない私に日本人の皆さんはすごく優しくしてくれて日本が大好きになりました。

その後、帰ってきてから、日本語を勉強したいなと思いながらも、仕事をしながら勉強するのは難しく、全然進みませんでした。

しかし、２００６年のある日、一回だけの人生、このままではイヤ！突然そのような思いがしました。
自分がやりたいことをしよう！後悔のない人生を生きようと！

親を説得し、その時までの貯金で釜山女子大学の国際観光日本語学科に入り、家も借りました。短大であっても日本語で有名な女子大です。２年間頑張って成績優秀ということで奨学金をもらいながらバイトもしました。２年生の時は日本語学科の代表、卒業式には成績最優秀で賞ももらいまして、勉強をし始めたことにとてもやりがいも感じました。

２年生の９月に就職が決まり、釜山から大阪に行くクルーズ会社の会長の秘書として働きましたが、もっと勉強をし続けたくてたまらなかったです。それで仕事をしながら通信大学の３年生に編入して試験の時は学校に行ったりしながら無事に卒業することができました。

２００９年のある日、女子大の先生から通訳のバイトを頼まれ、一日だけ武雄市役所の方々の案内をすることになりました。これが私が後に日本に来たきっかけとなります。その時ある方が「こんなに日本語が話せるのに何で日本で勉強しないの？日本の大学院に留学したら？」と助言をいただきました。もちろん私も留学したかったですが自分だけの力では学費と生活費全部はとても無理だと思いました。その前も何回も考えて諦めたことがありました。

しかし、ドラマに出てくるような話がきました。日本の社

会福祉の施設の理事長が韓国に福祉施設を作りたい。その私は仕事を辞め、この話を親にして親を説得しました。一生働ける職場があり、福祉を学んでそこの管理の仕事をすると自分の親の面倒もみることができると思い、決めたのです。それが大学受験の一ヶ月前でした。一ヶ月間、一生懸命に福祉の本を読んで合格しました。韓国で４年の大学を卒業していても、福祉を専攻してなかったということで学部の２年生で編入することになりました。夢のようでした。

佐世保に来たのは２０１０年の３月末です。その後韓国の土地の価額、建物の家賃や福祉施設の条件など、休みで韓国に帰ると市役所や不動産屋に寄って調べました。
学校の授業も大変でしたけど、将来のことを考えると楽しかったんです。

しかし、その後何もかもなかったことになりました。だけど、私は去年、大学院の受験を準備して合格しました。習ったものは全部頭の中に入っています。無理だと思って諦めていた留学も今しています。佐世保に来たことを後悔しません。親にはまだ何も話していないのです。今は色んな所で韓国語講座をしながら生活しています。残り後１年、自分が頑張れば無事に卒業出来ると信じています。

そして佐世保が好きになりましたから、出来ればもっと佐世保で生活したいと思っています。博士まで行けたら良いな！と思っています。すぐは行けないかも知れませんがいつかは必ず行きます！外国からの留学生は日本人の学生のような１９歳や２０歳ではない学生が多いのです。

学ぶことに年齢は関係ありません。皆が親からお金を出してもらいながら勉強しているわけではないのです。自分の力で稼いで勉強する留学生が多いということをお伝えしておきます。少し他の人より遅れますけど、それは決して恥ずかしいことではないと思います。

このように好きなことを学ぶことが出来て嬉しい気持ちです。まだまだ私が知らないことはいっぱいあります。たった一度だけの人生を楽しく、後悔しないように過ごしたいと思っています。
以上、自分の話でした。

それでは、この後は、私は福祉を学んでる者なので福祉の話をしたいと思います。

『高齢者扶養意識についての日韓比較研究』
“ 子からみた老親の扶養意識を中心に ”

私の研究は、韓国と日本における老親の扶養意識の異なりについて、背景となる文化、歴史さらには社会経済状況や福祉制度との関連を考察する。ということです。

少子高齢化問題は、欧米先進諸国等において大きな問題となっています。

特に韓国、日本では、世界に例を見ない急速なスピードで少子高齢化が進行しており、老親の扶養の問題は、今後、両国にとって非常に大きな問題となっていくことが予想される。このため、両国においては、高齢者福祉に関する制度の整備を進めているところであるが、その際には、老親の扶養について、子ども世代が現在どのような意識を持ち、またどのような問題を抱えているか、といった点を認識し、そのうえで制度を構築していくことが重要である。それで、私は日韓における１８歳から４０歳の者を対象として老親の扶養意識に対する調査を行うとともに、その結果について両国の家族のあり方、社会経済状況、福祉制度の状況等様々な要因を分析することにより、両国における、子による扶養意識を踏まえた高齢者のケアのあり方について検討していきたいと考えている。期待していてください。

高齢化は出生率の低下と死亡率の減少の相互作用によって発生する。
平成２３年版厚生労働白書をみると
日韓両国の出生率は２０１０年日本は 1.39、韓国は 1.26 であってその深刻さが分かる。日韓両国の死亡率は経済の発展と共に医療技術の発達、保健や衛生、栄養水準の向上などで持続的に減少しつつあった。

その中で昭和４５ (1970) 年に日本は、高齢化率が７％超え高齢化社会に突入（国連の報告書により「高齢化社会」と定義された水準）し、平成６(1994) 年に１４％を超えることで高齢社会となった。その後、２００５年の国勢調査では２０％を超えており、現在日本は世界一の超高齢化社会となっており、さらに２０５０年になると 39.6％になると推測されている（平成２３年版厚生労働白書）。

一方、韓国の場合、２０００年に高齢化率が７％を超え２００５年に 9.3%、２０１０年には 11.3%、さらに２０３０年になると高齢化率が 24％を超えると推測されている (2006 年韓国統計庁)。これは欧米諸国が４０年から８０年かかり、日本が２４年で到達した計数と比べてみると猛烈なスピードである。

このように日韓両国ともに急速な社会経済の変化に伴い、現代の社会は少子高齢化がさらに深刻になりつつある。そして高齢化と共に高齢者の介護問題や扶養問題は先進国共通の課題であって病院から施設へ、施設から在宅へという流れである。

かつて両国とも過去には農業を中心に社会が維持され、農業は生活保障の役割や機能を果たすと共にそこでは高齢者の経験や知恵はその社会を維持していく中で大きい役割を果たしていた。
しかしその後、高度経済成長と共に社会全般が都市化され昔のような高齢者の役割はどんどんなくなってきた。そして「男性稼ぎ主モデル」と呼ばれて、夫が外で働き、妻は

専業主婦として家事や子育て、また家庭介護者の中心となってきたその後社会の変化は家族の形態や意識にも大きい変化をもたらし、かっては高齢者扶養の主たる担い手であった女性の社会進出が進むことで、高齢者の扶養問題は社会的な問題になってきた。最近は日中高齢者だけで家の留守番をしている家庭や高齢者のみの世帯も少なくない。また後期高齢者の割合が増えつつあることも深刻な課題である。

そのため、日韓両国は様々なフォーマルな制度・サービスの整備・充実を進めている。それは社会保障、医療・保健等多様な制度であるが、その中でも日本は２０００年４月から介護保険制度をスタートさせた。介護保険制度は４０歳以上の国民を対象とし、６５歳以上の高齢者を第１号被保険者、４０歳以上６５歳未満の人を第２号被保険者と定め、保険者は市町村・特別区である。

一方、韓国も２００７年４月に「老人長期療養保険法」が成立し、２００８年７月から老人長期療養保険制度が実施された。韓国の場合、国が保険者となり、２０歳以上の全国民が被保険者となっている。

老後の経済的保障が公的年金によって解決できるとしても高齢者の心理的な扶養については何よりも家族の役割が最も期待されているだろう。

また、高齢者の心理、情緒的な状態が高齢者の健康に様々な影響を与えるという研究も進んでいる。
私はこのように人々が持っている多様な意識や考え方がその社会に大きい影響や変化をもたらすことがあると考えている。

日韓両国とも従来から人々の心に根付いてきた儒教思想の影響が強く、親の扶養は当然と考え、親または高齢者と同居しながら扶養する家族形態が普通であった。しかしながら、そういう意識は日本のみならず韓国においても今日では徐々に薄くなってきた。

高齢化の点においては、日本が先行し、韓国がそのあとを追っているように思われるが、家族・親族における結びつきの強さについては、両国において異なる点もある。ここで日韓を比較することは、一面では韓国の少し先の将来像を日本の中に見つけられるとともに、両国における社会の違いを反映した意識の違い等も認められるのではないかと思われる。

まだ今の所では先行文献だけの研究ですが、来月韓国で２週間くらい滞在しながら調査を行う予定です。結果が早めに出て論文が早く出来ると日本語と韓国語で一緒に書いて出したいし、自分の論文が今後の高齢者のケアに対して少しでも参考資料になるように頑張りたいと思います。
調査が上手くいって良い論文が書けるように皆さん応援してください！

以上で私の発表を終わらせていただきます。
ご清聴ありがとうございました。



Memo

ＳＡＡ：福田 英彦君／音響：川島 千鶴君
次回例会／３月　１日１２：３０～
次回献立／節句弁当